世界基準英語教育研究セミナー 開催レポート

「大学におけるグローバル人材育成の最先端」

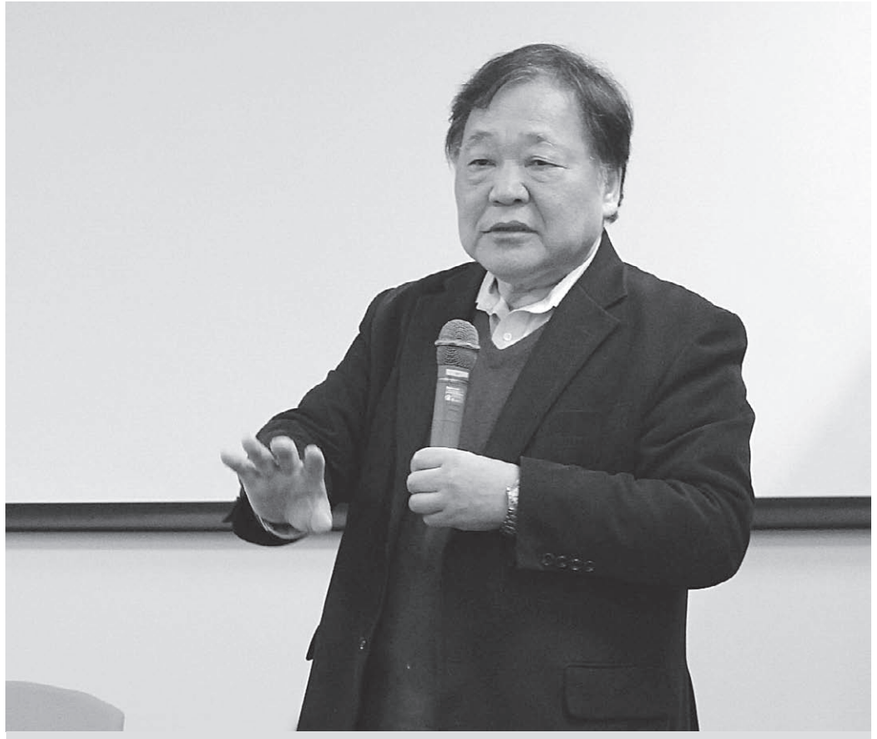
『教育満足度』首位に輝く国際教養大学の秘密に迫る

世界大学ランキング 日本版 2017

国際教養大学 勝又 美智雄 名誉教授

11月27日、グローバル・コミュニケーション&テスティング（GC&T、本社東京・港区）において、世界基準英語教育研究セミナー「大学におけるグローバル人材育成の最先端」が開催された。

当日は国際教養大学（秋田市）の勝又美智雄名誉教授が「国際教養大学におけるTOEFL®活用法」をテーマに基調講演を行った。グローバル人材の育成が社会的にも大きな関心を集めていることもあり、多くの大学・高等学校の教職員やその他教育関係者が詰めかけた講演の要旨をレポートする。



国際教養大学 勝又 美智雄 名誉教授

かつまた・みちお●1947年大分県生まれ。東京外国語大学英米語科卒業。1972年から2004年まで、日本経済新聞社で社会部記者、ロサンゼルス支局長、国際第二部次長、編集委員などを歴任。1981年、スタンフォード大学ジャーナリズム研究員、1993年から2002年まで東京外国語大学非常勤講師。04年、国際教養大学の開学と同時に教授兼図書館長に就任。北米研究（政治・経済・社会問題）、日米関係論などを教え、16年春に定年退職。現在はグローバル人材育成教育学会の理事や国際教育研究所の副所長なども務める。

「英語を」ではなく「英語で」勉強することが大切

語学力の基礎を築くという観点からも、高等学校を卒業するまでは、英語の勉強に邁進することはとても大事なことだと思います。しかし、最高学府である大学においては、単に英語の勉強だけでは学生の成長にあまりつながらないのではないかと考えています。むしろ、国語や数学、理科や社会といった他教科の科目を英語で勉強することによって、他の分野の教養が身につくと同時に、英語力がより一層磨かれると思っています。

また、現在はインターネット産業が普及し、生活をする上でなくてはならないものへと成長しました。実際、自分の興味のある言葉を検索ボックスに入力するだけで簡単にたくさんの情報を入手することができます。例えば、「ウィキペディア」で「地球温暖化」と日本語で入力すると、それなりの情報を得ることができます。しかし、ここに「Global warming」と英語で入力すると、日本語版の3倍以上の情報を得ることができるのです。

もちろん、ウィキペディアは誰でも編集できる特性上、信憑性の部分については自分で再度確認しなくてはならないですが、それでも英語版の方が情報量が多いことがほとんどです。やはり、英語は世界共通語となっていますから、世界中の人々が情報を更新できるという点が、こうした情報の差につながっているのだと思います。

大学生たちは、ネット等を活用して英語でどんどん調べていく習慣を身につけることで、より深い知識の習得に加えて、リーディングのスキルが自然と磨かれていくはずです。

無料のネット動画を活用して一流の講演を聴いてみる

また、もう一つ推薦したい英語の学習方法として、「TED Talks」の活用をあげることができます。

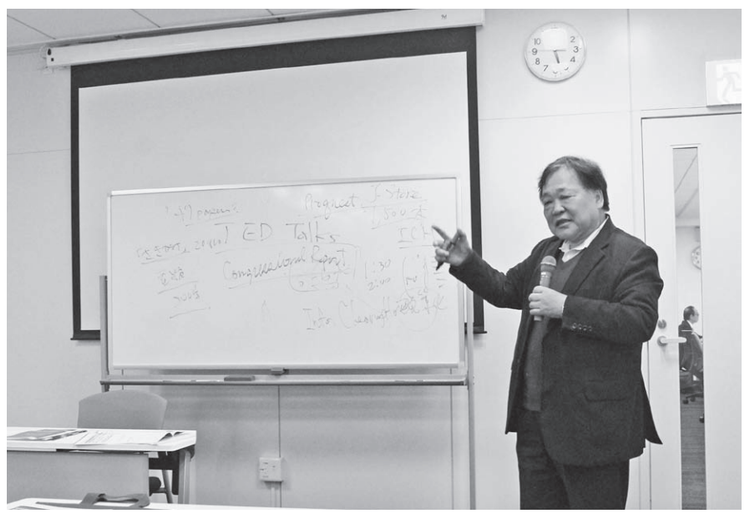
TEDは、Technology Entertainment Design(本部アメリカ・ニューヨーク市）の団体の略称で、さまざまな分野の第一線で活躍する人物を講師として招き、定期的にカンファレンスを開催しています。この模様は、「TED Talks」という動画アーカイブとしてインターネットを通じて全世界に無料で公開されているため、誰でも視聴することができるのが特徴です。

TEDが扱う分野は多岐にわたり、政治やビジネスなどの話はもちろん、最新の自然科学の研究や教育、音楽など、ジャンルは幅広いため、非常に興味深い内容が揃っています。

過去の講演者の一例を挙げると、2014年に「ノーベル平和賞」を受賞したマララ・ユスフザイ氏や元アメリカ合衆国大統領のビル・クリントン氏など、多彩な顔ぶれの人たちの講話を聴くことができます。

また、「TED Talks」には講演全体の様子が入っていますので、講演者がジョークを飛ばした際には、聴衆が笑ったりする姿も映っています。自分がそのジョークを理解できたかどうかもすぐに分かるため、リスニング力を上げるのにとても役立つはずです。

講演は5分程度の短いものもありますので、大学生の方々には空いた時間にぜひ聴いてみることをオススメしています。



無理なく英語力を伸ばす国際教養大学のEAP

国際教養大学では、「国際教養（International Liberal Arts)」を教学理念に掲げ、「豊かな教養」「グローバルな知識」「卓越した外国語の運用能力」の三つを身につけた、世界を舞台に活躍できる真の国際人の育成を目指しています。「英語で学び、英語で考える」を基本に、徹底した少人数教育と1年間の海外留学を義務づけている点が特徴です。

特に入学後は新入生全員がTOEFL ITP®テスト（以下TOEFL®）を受験して、英語集中プログラム「English for Academic Purposes(EAP)」を履修します。これは国際教養大や留学先の大学において、学問を深めていくために必要な英語力を修得する科目のことです。TOEFL®のスコアによって初級・中級・上級といった自分の英語力に合ったクラスで履修します。

具体的な授業の中身としては、「TED Talks」や論文・新聞記事等の英語での要約、小論文、グループワークでのプレゼンテーションなどです。これらの課題や授業の予習・復習をやり切るために、学生たちは英語漬けの生活を送らざるを得ないので、個人の英語力は自然と伸びていきます。

このように本学では、TOEFL®を学生の英語力を測るための指標として、カリキュラムと関連づけて活用しています。

また、豊富な言語学修教材をそろえた言語異文化学修センター(LDIC)や、24時間365日開放している中嶋記念図書館など、勉強に没頭できるための施設も整えられています。学生たちはこれらの施設を有効に活用しながら、互いに刺激し合い、日々の授業や試験へのモチベーションを高め合っています。

日本の大学の多くは、履修登録をして出席さえしていれば単位がもらえるケースが多いですが、国際教養大では実際にその科目が求める基準をクリアできて初めて単位が与えられます。いわゆる海外の大学のイメージです。そうした大学の方針によって、世界に通用する人材が輩出されるのです。これからも本学から多くの優秀な人材が世界に羽ばたいていくはずです。

国際教養大学の英語教育法

1. 1年生はEAP（English for Academic Purposes）で特訓
2. 入学式前日実施のTOEFL ITP®の成績で能力別クラス編成（平均スコア520）
3. 重視するのは「読み書き」。Reading、Writingを徹底的に鍛える
4. EAPの授業でTED Talksを活用する。「聞く」（Listening）もトレーニングする
5. EAPでは50～300語程度の作文をほぼ毎週、5～7本提出させる
6. 1日5時間の授業に宿題（自習）が5～8時間かかる
7. EAP修了の条件をクリアするのは春学期中に7割
（条件：TOEFL®500点以上、500語程度の英作文が5～10本。PowerPointを使ったプレゼンテーションが5回以上必要）

基調講演を終えて Q&A

参加者たちの質問に勝又氏が回答

Q 勝又名誉教授が考えるグローバル人材とはどのような人材だと思われますか？

A 自分の考えや意見を英語で伝えられることが、グローバル人材の第一歩だと思います。ビジネス現場において、ネイティブスピーカーと会話をしている時に「Yes」をたくさん用いて聞くことに終始しているビジネスマンを見かけますが、「That's your opinion. I have a different thought.」（あなたの意見は分かりました。しかし、私には別の考えがあります）というように、自分の意見をそのフレーズの後にきちんと言えるだけで、その人の評価はグッと上がります。そういった英語で考えを伝えられる人が一人でも多く増えて欲しいと願っています。

Q 勉強が苦手な大学生に対して、英語力向上に向けたアドバイスがあればお願いします。

A 勉強が苦手な大学生であれば、まずは日本語で論理的に物事を考える努力をすることをオススメします。私は世界を舞台に仕事をしてきましたので、これまでにいろいろな方とお会いしてきました。「日本語だと言えるのですが、英語は苦手で…」という方もいらっしゃいましたが、「それでは日本語で良いので言ってみてください」と尋ねると、意外と日本語でも上手く説明できなかったりするんですね。ですから、英語学習と同時に、日本語で論理的な説明をする訓練をぜひしてみてくださいとアドバイスしたいです。

Q どうすればもっと日本の大学生のスピーキング力を向上できますか？

A 上位層の学生は別として、ごくごく平均的な大学生であれば、流暢に英語を使いこなせる学生はそう多くはないでしょう。そんな彼ら・彼女らに私が伝えたいのは、まずは意思疎通ができるように頑張ってみようということです。英語は世界共通語ですから、非英語圏の国民の英語はそれぞれに訛りがあります。日本人にも特有の訛りがありますが、「綺麗に発音しなければ」といったことよりも「伝われば良い」くらいの心の余裕を持てば、自然と英語のスピーキング力は上がっていくと思います。

Q TOEFL Junior®の効果的な活用方法について教えてください。

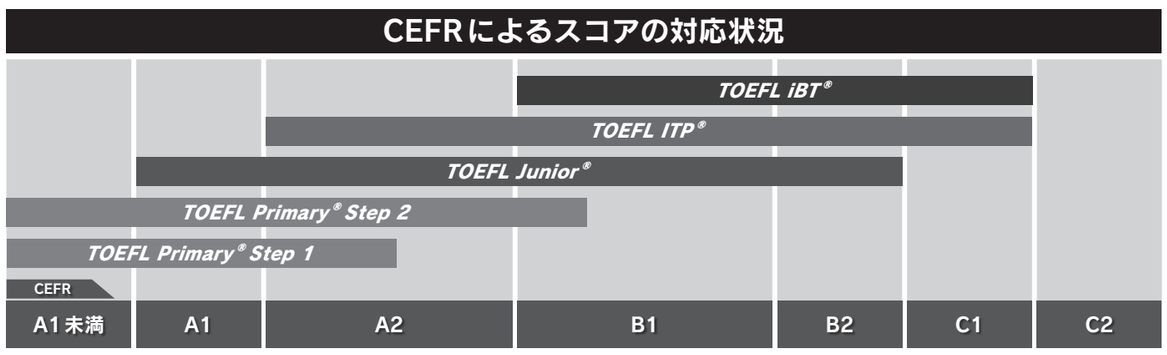
A TOEFL®は「学力としての英語力」を正確に測ることができます。また、目標を持つためにはとても良い指標です。国際教養大学でもクラス分けや留学の条件などで活用しています。しかしながら、試験としての難易度が高いというのもまた事実です。そのため、TOEFL Junior®で英語力の基礎を確認し、TOEFL iBT®へとつなげていくという方法がオススメです。TOEFL Junior®は中学生・高校生向けに作られている世界基準のテストですが、これから英語を本格的に勉強したいという大学生に対しても効果的な内容になっています。

ETS TOEFL Junior®

TOEFL Junior®の資料およびサンプル問題をご希望の方は右下のQRコードよりお申し込みください。
お問い合わせ内容欄に「大學新聞 資料・サンプル問題希望」とご記入ください。

TOEFL Junior®は英語によるコミュニケーション能力を測定するテストで、ペーパーベースで「読む力」「聞く力」を測定します。
TOEFL iBT®につながる唯一のテストであり、高校生が初めて受験するのに適した世界基準テストです。

CEFRによるスコアの対応状況



＊各テストのCEFR上下限に基づき算出しております。あくまで目安としてご参照ください。

Check! トフルジュニア 検索

2018年度 公開テスト開催概要

TOEFL Junior®
世界基準で「読む力」「聞く力」を測定
大学入試でも120以上の大学で活用
受験料:4,320円(税込)

TOEFL Primary®
世界に飛び出す、はじめの一歩
受験料:3,880円(税込)

テスト実施日 2018年6月24日(日)・12月9日(日)
実施会場 札幌・東京・名古屋・大阪・福岡(全5会場)

＊公開テストのほか、学校・団体受験も可能です。
テストの詳細・お申し込みは公式ウェブサイトをご覧ください。

お問い合わせ
GC&T Global Communication&Testing
グローバル・コミュニケーション&テスティング
TEL 03-6836-0125[平日9:30～17:30]
E-mail info@gc-t.jp 公式サイト http://gc-t.jp/